



文責 本宮小校長 佐久間仁

学 校運営協議会



七日に第四回学校運営協議会を開催しました。会では、十二月に実施した学校評価アンケート結果（保護者・児童）について説明を行い、今年度の評価結果などについて意見を交わしました。

【説明（学校評価結果について）】 保護者アンケートについて

昨年度と比較すると、保護者の評価は、ほとんどの項目でプラス評価の割合が高い結果だった。一部で下がったものがあった。「家庭生活の習慣化」は、プラス評価が二十ポイント減少していた。「読書の習慣化」は四十六%で最も低い割合だった。「楽しい学校」はプラス評価が九十%だが、マイナス評価も一定程度見られた。「生活習慣・メディアコントロール」はプラス評価が三十六ポイント減少した。

「運動・外遊び」はプラス評価が十七ポイント減少した。

下がった項目は、家庭生活に関する内容が多いことから、家庭生活改善に向けた取組が必要である。教師・児童と保護者の間に認識の差が見られることから、学校の教育活動を直接参観してもらおう機会を設けるなど、学校を積極的に保護者・地域に開いていく必要がある。

児童アンケートについて



児童の自己評価は概ね高い結果となっている。その中で気になるのは以下の項目である。「考えや理由を書く・話す」は、他の項目に比べると低めであり、この傾向は以前からなかなか改善されない。

「読書タイムや本の読み聞かせ」は、例年評価が低めだったが、プラス評価が五ポイント増え、改善の傾向が見られる。「学校が楽しい」は昨年度より良くなり、プラス評価が九十%になった。「早寝早起き朝ご飯、ゲームのきまり」はプラス評価が八十九%だが、教師と子どもとの認識の差が大きい。

自由記述においては、「いじめ、暴言、暴力、仲間外れ」に関する記述が多くなっている。特に、「暴言、暴力、いじめがない学校」などの記述が多い。「学校が楽しい」

のマイナス評価との関連で改善策を考える必要がある。

今後の対応策について



「学校運営全般」では、学校・学年便り、ホームページなどによる積極的で丁寧な情報提供、内容の充実を努める。参観の機会を見直し、自由参観週間を設けるなど、開かれた学校づくりに努める。「考える子」では、学び合い、高め合う学級集団づくり、教師のコーディネート力の向上、ICTの積極的な活用に努める。家庭学習スタンダードを活用し、週末読書を奨励するなど、家庭学習・読書の習慣化を進める。「思いやりのある子」では、相手意識をもたせ、自分を振り返る場を設けるなど、あいさつ運動の一層の活性化を図る。暴言、暴力などいじめにつながる言動に対して毅然とした対応に努める。「やりぬく子」では、生活習慣、メディアコントロール力の育成に向けた取組の見直しを図る。夜更かし、朝寝坊、メディア漬けなど、家庭生活と学校での体調不良との関連を保護者と共有し、生活改善に向けた連携を強化する。



【意見交換（評価結果を受けて）】

○課題としてメディアコントロールがある一方で、ICTを活用するといふ難しさがある。大人もインターネットで調べものをする現在において、保護者に学校の取組をどう伝えるかが課題だと思ふ。

○遊友クラブで闘いごっこをしている様子を見ていると、叩かれる子の痛みが分からないのか、力の加減ができない様子がうかがえる。それ以外は見守るようになっている。

○自由記述を読むと、親の不安な気持ちや伝わってくる。コロナ禍以降、学校や家庭、地域が閉鎖的になっている分、親の気持ちがこのように出てくるのではないかと。PTA活動等の縮小で連携が少なくなっているのが、先生と保護者の関係づくりが大切だと思ふ。

○学校と保護者の接点が少ないので、（学校での）子どもの姿が見えにくくなっている。保護者のストレスもたまっているのではないかと。メディアの影響からか、子どもの言葉遣いが気になることがある。

○子ども同士のトラブルで、親の受け止め方に温度差があるように思ふ。親同士で解決できない場合、先生に相談したいが、対応が難しい場合もある。どこまで学校に頼ってよいのか迷うところである。